

Open Talks!

2022/02 vol.145

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか？ 今月のOpen Talks!では、OTS湾岸センター内の撮影事業室に誰でも簡単にうまく写真が撮れるコツを教えてくださいました。スマートフォンの普及で、誰でも手軽に写真を撮る事ができ、撮る・撮られることも増えてきましたよね。またこの先、卒業・入学シーズンの到来もあり写真を撮る機会もあるかと思しますので、ご紹介させていただきたいと思います。 今月号も、是非ご覧ください！

プロに学ぶ 撮影テクニック特集



Q:料理や風景などを撮る時のコツは？

突然ですが下の2枚の写真を比較した時、皆さんはどちらがおいしそうに見えますか？
好みにもよりますが、右の逆光で撮影した写真の方が立体感が出ていておいしそうに撮れています。

人物を撮る時は、瞳に光や白い物が映るように撮ると生き生きしているように撮れますが、料理や風景、植物などの無機物は逆光で撮るとハイライトが入るので、立体的に撮ることができます。
人物は順光、料理などは逆光で覚えるといいかもしれません！

↓カメラ側から光を入れて撮った場合



順光ver

↓カメラと反対側から光を入れて撮った場合



逆光ver

Q:人物写真を撮る時のコツは？

スマートフォンのカメラで撮る場合は、離れてズームで撮ると目を見た時と同じように撮れる！撮りたい対象は中心よりも端に位置するように撮ると良いそうです。人物を撮る時ですが、実際に撮影事業室でお客様の商品を撮影する際にもサイトを見た時と実際の商品のイメージの相違がないように撮影する事を心掛けて伺いました。対象人物を真ん中で撮ると証明写真のように見える可能性があるため、**縦横の三分割構図**を意識してみましょう！

※三分割構図とは…

写真の縦横を三分割し、その交点や線にメインとなる被写体を配置する構図です。三分割構図はグリッドとも呼ばれており、端末にもよりますが、スマートフォンでもカメラの設定やカメラ専用のアプリでもよび出すこともできるので、ぜひ試してみてください♪

注意する事は、ななめに撮らない事！（狙ってななめならOK）地面と水平にして撮影するとすっきりした印象に仕上がります。

外で撮影をする際は、被写体の目に光を入れてあげるようにすると生き生きしたような写真が撮れるそうです。

光がうまく入らなければ、白いものをあててあげるだけでレフ板の役割をしてくれます。

また逆光で撮ってしまうと写真が暗くなってしまい、うまく撮る事ができない経験をされた方も多いかと思います。

撮影する被写体と同じ場所にいる、なるべく撮る側が動いてあげるなどして、逆光を回避して撮影すると良いそうです！◎



Q:写真を撮られる時、少しでも写りをよくしたい！

集合写真を撮る時、皆さん端に行ってしまうがちではないですか？
実は逆です！集合写真に写る際には、なるべく真ん中に位置取りするほうがいいんです！

カメラのレンズが湾曲している為、端に行くと歪んで写ってしまいます。全身で写るときは、手を腰より高めの位置に添えると脚が長く見えます。モデルさんの撮影のポーズを思い出してみると…確かに腰に手を添えているイメージがありませんか！？

自撮りをする時は上から撮ってあごを引くと、若干細く見えます。ぜひ試してみたいかがでしょうか！？



■あしがき～撮影事業室に聞きました!!～■

今回OTS湾岸センター内に構える撮影事業室にお話を伺いました。同じセンター内においても実際にあまり立ち入る機会は多くありません…。SNSでおしゃれな写真を目にすると、“自分もこんな風にうまく撮影できたらな…”と思い、せっかくなら同じセンターにいるプロにお話を聞こう！と今回特集を組ませていただきました。実際にスタジオで被写体に光を当てて撮影・説明をしていただきましたが、普段カメラで撮影する時には構図や光の当て方など気にした事がなかったので、イマイちな印象になっていたかもしれません。教えていただいたテクニックを使っておしゃれな写真を撮りたいと思いました！